

(6) 湯川土地区画整理（市施行）

本地区は、湯川温泉街を含む約137ha区域であるが、津軽海峡の海辺地に接するほか、全国的に名高いトリスチヌ修道院を背景に古くから温泉保養地として栄えてきた地区である。地区内には、2級河川で一部分のみ改修がなされた松倉川を始め、原始河川の鮫川および湯の川を有しており、集中豪雨時には、水害の常襲地帯として住民を悩ませていた地区である。また、道路は、不規則な配置のみならず、狭隘なものが多く、交通・防災上および衛生上からも危惧されていた。このため、昭和14年の湯川町と函館市との合併当時から公共施設の整備改善が重要な懸案事項とされていたが、時局の情勢変化等により遅れを生じ、戦後の混乱期を経てようやく、これらの整備が土地区画整理により進められることとなった。

本事業において、河川については、蛇行が甚だしく下流近くで合流し水害の要因をなしていた鮫川および湯の川の大々的なショートカットおよび湯の川を松倉川に放流する改修計画をたて、また、道路については、当時の都市計画道路11路線の整備および区画道路の整備計画を整えて、昭和26年に事業に着手したが、前述の第一新興土地区画整理地区と同様に、戦後の財政需用増大の時期にあたり、保留地処分金および受益者負担金のほか河川事業、道路事業および失業対策事業を導入して、推進した地区である。しかし、地区面積が137haにおよぶため長期の施行期間を要し、旧都市計画法適用期限の昭和35年3月ようやく換地処分が行われた。

〈事業の概要：湯川〉

総括

施行者	函館市	都市計画決定	昭和25年6月17日	地区内人口	7,146人
施行面積	1,370,229㎡	事業計画決定	昭和27年1月9日	権利者数	所594人・借451人
施行期間	S26～S34年度	換地処分の公告	昭和35年3月31日	筆数	1,629筆

土地の種目別施行前後対照表

区分	施行前		施行後		備考	
	地積㎡	割合%	地積㎡	割合%		
公共用地	道路	83,757	6.11	259,820	18.96	
	公園・緑地	20,357	1.49	46,847	3.42	
	水路・河川	89,032	6.50	69,439	5.07	
	公共用地計	193,146	14.10	376,106	27.45	
宅地	宅地	706,285	51.55	735,810	53.70	
	農地	146,729	10.70	10,518	0.77	
	その他	113,146	8.26	20,715	1.51	
	国有地	37,054	2.70	32,168	2.34	準国有地含
	市有地	188,930	13.79	179,038	13.07	
地	宅地計	1,192,144	87.00	978,249	71.39	
保留地				15,874	1.16	
測量増減	-15,061	-1.10				
合計	1,370,229	100.00	1,370,229	100.00		

減歩率計算表

整理前宅地地積㎡	同更正地積㎡	整理後宅地地積㎡		減歩率	
		保留地含む	保留地除く	公共減歩%	合算減歩%
1,192,144	1,192,144	994,123	978,249	16.61	17.94

公共施設調査

道	都市計画	幅員m	延長m	面積㎡
	区画	11～25	6,832	133,932
	特殊	4～	16,494	125,888
路	道路計	—	23,326	259,820
公	公園	5箇所	—	46,847
園	緑地	—	—	—
水	河川	松倉・湯の川・鱒川	2,992	69,439
路	計	—	2,992	69,439

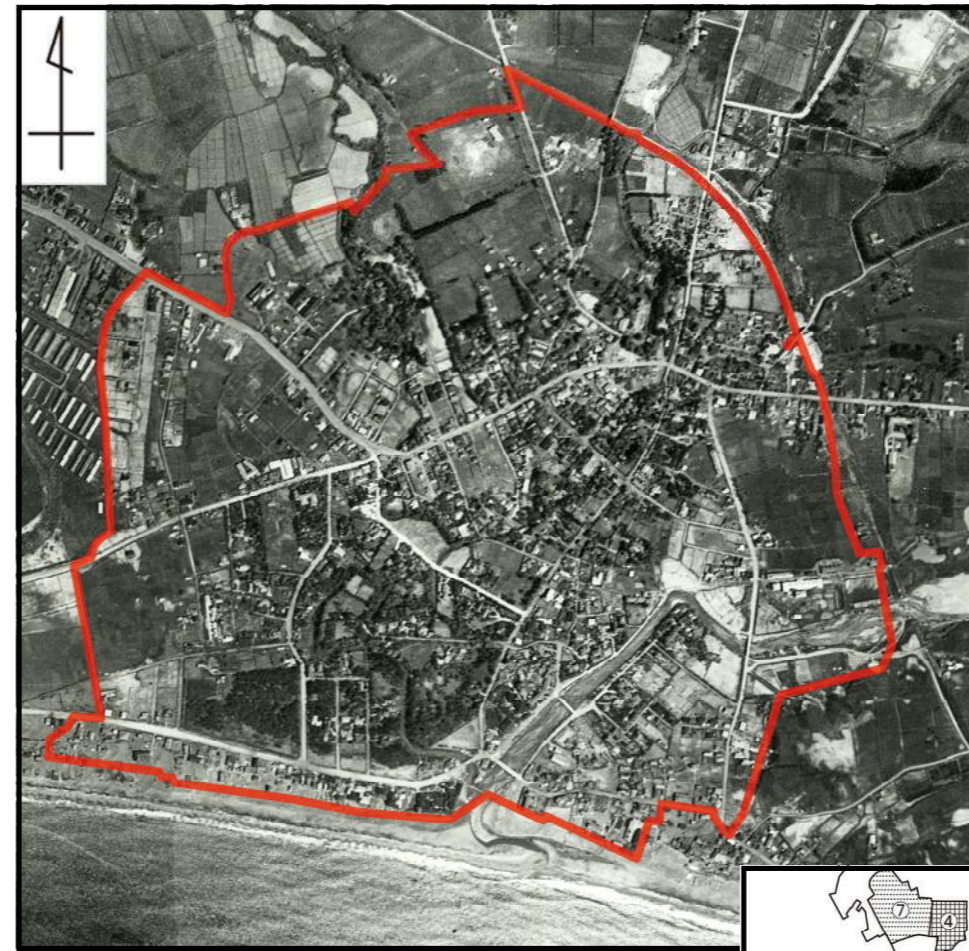
事業費・支出

区分	数量	金額(千円)
都市計画	6,832 m	155,889
区画	16,494 m	87,328
特殊	—	—
公園	—	—
水路	1,720 m	20,538
計	—	263,755
移転・移設	307	43,449
法2-2	—	—
調査設計	—	8,724
事務費	—	3,740
その他	—	8,890
合計	—	328,558

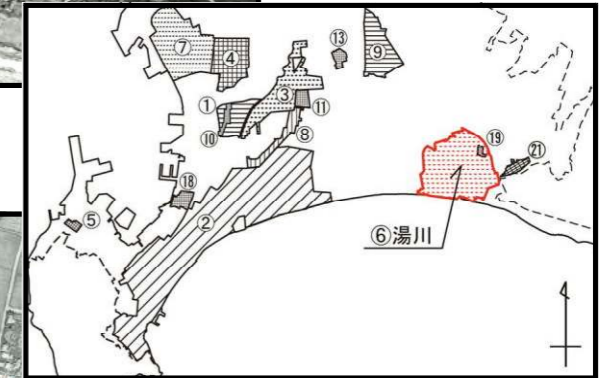
事業費・収入（単位：千円）

国庫補助金				公管金	
道費	市費	保留地処分金	その他	公園	河川
106,102	146,473	9,820	23,000	—	—
43,163				合計	
				328,558	

国庫補助額は街路事業、水利施設整備事業の補助金を計上。道費は道施行の公共事業、失業対策事業を計上し、その他には受益者負担金を計上した。



湯川地区  
～施行前～  
(昭和23年撮影)



湯川地区  
～施行後～  
(昭和35年撮影)